

(第 12 号様式)

学位論文の要約 (研究成果のまとめ)

氏名 安藤 利奈

学位論文名 パーキンソン病患者における安全な自動車運転のためのアドバイス研究

学位論文の要約

パーキンソン病 (Parkinson's disease:PD) 患者の安全運転に関する適切なアドバイスを提供するための情報を得るための研究を行った。UK Brain Bank criteria を満たす PD 患者で、現在運転継続中または PD 発症後に運転を中止した患者を対象とした。運転に関する問診は専任の看護師が行った。年齢、性別、Unified Parkinson's disease rating scale (UPDRS)、Japanese translation of the Montreal Cognitive Assessment (MoCA-J)、Mini-Mental Scale Examination (MMSE)、Epworth sleep scale (ESS)、Questionnaire for Impulsive-Compulsive Disorders in Parkinson's Disease (QUIP) および調査時の内服薬、運転歴、運転事故歴、事故の内容、事故時の眠気や突発性睡眠の有無を調査した。325 人の PD 患者をスクリーニングし、140 人 (男性 74 人、女性 66 人) が調査対象であった。MoCA-J、MMSE は年齢に相関して低下していた。過去の自動車事故についての検討で、140 人中 15 人の患者が PD 発症後に重大事故 (人身事故や追突事故など) を経験していた。PD 発症前後の重大事故発生率を比較すると PD 発症後が PD 発症前より高く (0.0177vs0.0031/年/人)、PD 発症前後で重大事故率の割合は 4.3 [95%CI 1.9-9.7] であった。また、PD 発症後に重大事故を経験した 15 人の患者のうち 4 人で事故直前の記憶がなく、突発性睡眠により事故を生じた可能性が示唆された。次に、PD 発症後に事故を経験していない群 (109 人)、軽微な事故 (車を擦るなど) を経験した群 (16 人) と重大事故を経験した群 (15 人) の 3 群について各調査項目を検討した。PD 発症後の重大事故と関連がある項目は、罹病期間、内服量、H&Y 重症度分類、UPDRS part II、part IV、MMSE、QUIP であった。また、PD 発症後の重大事故と UPDRS part III の運動緩徐および姿勢不安定性のスコアに有意な関連を認めた。QUIP スコアは重大事故経験者で有意に高く、重大事故の可能性を予測する他の項目と多変量解析を行ったところ、QUIP スコアは他の項目と関連はなく、重大事故の独立したリスク因子であることが示唆されたことから、PD 患者に運転を控えるようにアドバイスをする際には、QUIP のスコアを PD 重症度や認知機能評価に加えて参考にすべきと考える。なお、この学位論文の内容は、以下の原著論文に既に公表済である。

主論文: Rina Ando, Hirotaka Iwaki, Tomoaki Tsujii, Masahiro Nagai, Noriko Nishikawa, Hayato Yabe, Ikuko Aiba, Kazuko Hasegawa, Yoshio Tsuboi, Masashi Aoki, Kenji Nakashima,

Masahiro Nomoto. : Clinical findings useful to advise for driving safely in patients with Parkinson' s disease. Internal Medicine 2018 Feb 28. DOI 10.2169/internalmedicine.9653-17

参考論文：安藤 利奈, 山崎 知恵子, 岩城 寛尚, 辻井 智明, 矢部 勇人, 西川 典子, 永井 将弘, 野元 正弘 : Rinsho yakuri/Japanese journal of Clinical Pharmacology and Therapeutic 48(5), 167-171, 2017